

常識を疑え！



東京ガス株式会社 社外取締役 ほか
引 頭 麻 実 CMA

「わが社の常識は、他社の非常識。ぜひ、そうした視点からも社外の意見をいただくとありがたい」。私自身の経験ではないが、こうした会話が社外役員招聘の際に交わされることがあると聞く。各企業の常識は、その歴史やカルチャーによって形成されており、確かにその環境に慣れてしまうと、それに対して疑問を持つことが難しくなってしまうのが、常である。慣れきった常態に対して、新しい視点からの気づきが、企業にとって必要であることは言うまでもない。

ここで、釈迦に説法かもしれないが、常識とは何かを考えてみる。常識とは、その社会に暮らす人々が共通の理解をしている考え方や、概念、そして事柄であり、それを前提として様々な活動が形成されるようなものと筆者は考えている。この常識を逸脱する行為が行われたとき、人々は“非常識”と糾弾し、行為者にとっては、大変居心地が悪くなる。常識とは、ある意味で、その社会において、安心、安全に暮らしていくための、参加者が共有する基盤の一つである。

少し意味合いは異なるかもしれないが、近年、考古学の世界でもいわゆる学会の常識とは異なる発見が、多数出現している。様々な科学技術の進歩により、超古代文明が新しく発見されたり、これまでの定説を覆すような事実が判明したりしている。例えば、これまで恐竜は巨大な爬